

JCN 小田原では、番組審議会を設け、番組審議委員による審議会を開催し、自主制作番組について多岐にわたって審議していただき、地域の皆様に親しまれ、信頼を得られるよう、よりよい番組作り、番組の適正化に努めております。

◆ 日時 2012 年 7 月 12 日 (木) 11:00～13:00

◆ 場所 JCN 小田原 2 階会議室

◆ 出席者

<番組審議委員・敬称略>

会長・芳澤 一夫

副会長・浅野 俊哉

委員・遠藤 隆佳、小野真二、高井 信子、中井英雄、畠山 康

時田光章代理・内田 里美

<JCN 小田原>

山田 文雄(代表取締役社長)、新井 博(取締役 営業部長)

藤井 成彦(取締役 総務部長)

日沖 英明(JCN 神奈川エリア制作・営業室長)

保田 典子(コンテンツ部課長)

◆ 審議会概要

(1) JCN 小田原社長あいさつ

(2) 放送番組審議会規定の説明と審議委員の委嘱について

(3) 番組審議会会長・副会長選出

(4) 2012 年度小田原局自主制作番組の取り組みについて<映像視聴>

(5) 前回の審議会の意見を受けた JCN 小田原の取り組みについて

(6) 2012 年度 JCN グループコンテンツ 神奈川エリア・広域番組について

(7) 下期に向けた番組制作について

◆ 委員からの主な意見

*委員から以下の意見があり、今後の自主番組制作の参考にさせていただくこととしました。

【ケーブルテレビならではの地域性について】

・地域の風景や職人など、“今”撮影して残しておきたい映像がある。番組制作だけでなく、映像素材のライブラリー機能としても期待したい。古い写真やデータなども活用できる。

・地域の様々な活動（例として、久野地区の親子そば作り体験など）は学校教育にも活用できるのではないか。

・小田原は市民活動が盛ん。まだまだ知られていない小さな団体もあるので、活動を掘り起こしては。

・地域の大学と協働した番組作りをしては。例として、小田原女子短期大学との協力で子育て支援の番

組など。

【防災情報について】

・防災無線がデータ放送化で見られるようになりさらにデータ放送に期待している。ただ、リモコンの使い方がわからないという声もある。

・(先月の台風4号を受けて) 県がHPで公表している、時間雨量・積算雨量などが出せると、市民が危険度を判断できるのではないか。

・県のHPで公表されている県内各河川の水位の情報は有効ではないか。避難勧告が出てから準備するのは遅い。視聴者が判断できる情報を。どのように伝えていくかが大切。災害時はコミチャンを見る習慣づけ。

・ニュースに出演している気象予報士に解説をしてもらうとより具体的。

【その他】

・若者のテレビ離れが進んでおり、ターゲットを決め取り込む方法を考えていくべきでは。

・高齢者もPCを使っている。NET配信も検討してはどうか。

※その他 具体的な取材情報についてもご意見・質問をいただきました。

(*各委員からのご意見を抜粋して掲載しております)

JCN 小田原 番組審議会事務局

平成 24 年度第 2 回 JCN 小田原番組審議会議事録

JCN小田原では、放送番組審議会を設け、審議委員による審議会を開催し、自主制作番組について多岐にわたって審議していただき、地域の皆様に親しまれ、信頼を得られるよう、よりよい番組作り、番組の適正化に努めております。

◆ 日時 2013 年 2 月 26 日 (火) 11:00～13:00

◆ 場所 JCN小田原 2 階会議室

◆ 出席者

<審議委員・敬称略>

会長・芳澤 一夫

副会長・浅野 俊哉<欠席>

委員・時田光章、遠藤 隆佳、中井 英雄

<欠席>高井 信子、畠山 康、小野真二

<JCN小田原>

山田 文雄(代表取締役社長)、新井 博(取締役 営業部長)

藤井 成彦(取締役 総務部長)、山本 孝夫(監査役)

日沖 英明(JCN神奈川エリア制作・営業室長)

保田 典子(コンテンツ部課長)

◆ 放送番組審議会 概要

(1) JCN小田原 社長あいさつ

(2) 前回の審議会の意見を受けた JCN小田原の取り組みについて

(3) 2012 年度の JCN小田原局自主制作番組の取り組みについて <映像視聴>

(4) FMおだわらとの同時生放送について

(5) 2013 年度 JCN小田原番組概要について

(6) 2013 年度 JCNグループコンテンツ 神奈川エリア・広域番組について

◆ 委員からの主な意見

*委員から以下の意見があり、今後の自主番組制作の参考にさせていただくこととしました。

【災害情報について】

- ・災害発生時の JCN小田原の体制はどうなっているのか
- ・行政との防災無線データ放送連携などは知らない人が多い。もっと PR しては。
- ・市内 25 の小学校は広域避難所に指定されている。職員室や校長室にテレビがある学校は多いが、避難場所となる体育館にはないのが現状。避難場所で見られるようにならないか。
- ・FMおだわらとの生放送は良い取り組み。さらに行政と連携を取り、防災情報の発信について充実させてほしい。
- ・FMおだわらや防災対策課と災害情報の出し方などでディスカッションする場を設けても良いのでは

【地域メディアの役割について】

- ・小田原市と協力し古い映像や写真のデジタル化をぜひ進めてほしい
- ・地域の伝統工芸などを取り上げる新年度番組「技人」で、人にスポットをあてるだけでなく、市民も意外と知らない制作過程なども紹介してほしい。
- ・「技人」を学校の教育教材として活用できないか
- ・今までまちづくりに参加してこなかった人が、最近、手弁当で参加し始めている。新年度番組「市民力」でぜひ紹介してほしい。
- ・市内にある3つの大学と連携した番組ができないか
- ・小田原市内の小中学校では各校で特色ある取り組みをしている。これらの情報を番組で取り上げ、市民に発信してほしい。

【その他】

- ・スマートフォンの普及で情報を取得する環境が大きく変わっている。Smart TV Boxの機能などを使い、行政と組んで情報通信分野のモデル事業としてチャレンジできないか

※その他 具体的な取材情報などについてもご意見・質問をいただきました。

(※各委員からのご意見を抜粋して掲載しております)

JCN小田原 放送番組審議会 事務局